

会 議 議 事 録

1	会議名	令和5年度 第2回長岡市栃尾美術館協議会
2	開催日時	令和5年12月11日(月曜日) 午後2時から3時30分まで
3	開催場所	長岡市栃尾美術館 1階 アトリエ
4	出席者名	(委 員) 8名 境野 委員、星野 委員、目黒 委員、北山 委員 岡村 委員、山本 委員、渡辺 委員、柴田 委員 (事務局) 4名 梅沢 中央図書館長、五井 中央図書館長補佐 近藤 栃尾美術館長、酒井 会計年度任用職員(学芸員)
5	欠席者名	0名
6	議題	(1) 令和5年度前期事業報告及び後期事業計画について (2) 令和6年度事業計画(案)について (3) その他
7	審議結果の概要	・議題(1)(2)について 事務局提案のとおり承認した。 ・(3) その他の主な意見 中学校部活動の民間移行による地域の中学校の美術部について
8	審議の内容	
	事務局	<p>議題(1) 令和5年度前期事業報告及び後期事業計画について (資料1-1、1-2、1-3、1-4により説明)</p> <p>展覧会事業では、中原淳一展が9月に入って少し涼しくなりはじめたころから土日の人数が増加してきた。「とちびまつり」と重なった最終日の192人が一日の最高集客数となった。客層は高齢者が多く、来たくても来館できないので残念だという声も届いた。「椿悦至展」では、作家の遺族をはじめ、作家と関係の深い太平洋美術会関係者の県外からの来館が多かった。また、わかりやすい内容から誰でも気軽に立ち寄っていたようである。なお、過去に発行した図録の販売に努め、約50冊の購入があった。</p> <p>普及事業は、新規で「初心者からの写真講座」と「つきいち☆アート」を立ち上げた。「初心者からの写真講座」については、そのメンバーで来年からサークル活動を開始することになり、アトリエ利用者へつなげることができた。つきいち☆アートについても、こどもの申込が多いと思われたが、様々な年齢層からまんべんなく参加があり、リピーターもついた。</p> <p>こども造形講座は、チラシはペーパーレスにより、全校配布から長岡教育情報プラットフォーム「こめぷら」でのオンライン周知へPRを変更した。その影響がいつもより定員に達するまで時間がかかった。</p>

会長	この説明に対して、ご意見等はあるか。
委員	普及事業「双葉保育園ワークショップ」は、コロナ禍では園外活動が難しく、美術館の職員から園に出張してもらい制作した。昨年から美術館で制作できるようになった。今回も美術館に来るといった目的が達成できてよかった。
会長	中原淳一展では大学生を60名連れてきた。テキスタイルを学んでいる学生たちは、とても勉強になったと言っていた。作品もとてもよかった。椿悦至展も観覧者数は伸びなかったが、約80点もの作品を一堂に鑑賞することができて良い内容だった。
委員	集客数について、それぞれの展覧会での目標人数は設定しているのか。設定しているとしたらどのように算定しているのか。
事務局	中原淳一展は6,000人、椿悦至展は1,900人としている。人数については、開催経費などを含めて考慮し算出している。
委員	第1回会議で、ポスターを直接店舗や施設へ持参すると効果的という話をした。中原展の最終日にポスターを抽選で配布していたが、余ったポスターがあったということは、会議での発言が反映されなかったのか。家へポスターを持ち帰っても有効活用されないのでは。
事務局	ポスターが欲しいという希望者が多く、最終日ということで、予備の保管分を含め希望者へサービスした。今後の美術館活動のPRにもつながると想定し配布した。
委員	「つきいち☆アート」の参加費について、6回のうち300円、700円の回もあるが、ほとんどが100円だった。このような低い料金設定での開催はどうして可能なのか。
事務局	講師は職員が対応し、材料はストックを活用している。今回材料を新規で購入したメニューはスケッチ講座以外ない。アートの入門編として、気軽にものづくりの楽しさを知ってもらいたいため企画した。
委員	「こども造形講座」や「つきいち☆アート」の料金設定は適切だと思っている。低料金の場合、廃材を活用して楽しく制作できる。ここで体験したことを家にある材料で作ってみることができる。美術館の工夫で、美術の敷居を低くすることも大切だ。
委員	美術館の評価について、観覧者数や参加人数だけでなく、満足度な

	<p>ど、内容をもっと重視するべきだ。集客数のみに論点がいかにないようにしたほうが良い。</p>
委員	<p>学校の団体観覧などは来ているのか。</p>
事務局	<p>徐々に増えてきている。椿展では栃尾高校が3日間にわたり来館した。こども展でも出品した小学校や保育園などの観覧も増えている。</p>
事務局	<p>議題（2）令和6年度事業計画について （資料2により説明） 春の企画展は、4年に1回開催の「日本刀の美」、夏は「星野道夫展」、秋は「松岡達英展」を予定。「日本刀の美」は、先回を令和2年度だったが、コロナ禍で行動制限が解除されたタイミングで開催したため、6,034人と多くの集客があった。松岡達英展については、長岡市に作品を寄贈予定のため、公開もかねて展覧会を開催する予定である。</p>
会長	<p>この説明に対して、ご質問等はあるか。</p>
委員	<p>松岡達英さんの作品はいつ寄贈されるのか。</p>
事務局	<p>今年度寄贈予定で現在手続き中である。</p>
委員	<p>どれも良い企画と思うが、作品のすばらしさを伝える必要がある。それをどうやってアピールして集客につなげていくかが重要だ。</p>
委員	<p>キーマンを中心に発信すると効果があるのではないか。</p>
委員	<p>県内の他の美術館がテレビなどで展覧会をPRしているが、どういう仕組みなのか。</p>
事務局	<p>CMは有料であるし、番組内の告知は協賛の場合が多いので、テレビでのPRを実現するのはなかなか難しい。</p>
委員	<p>この展覧会を開催することになった理由や、作品の良さなど、SNSで年度初めからPRしてはどうか。ポスターとチラシだけでは作品の良さがなかなか伝わらない。</p>
事務局	<p>使用可能な広報媒体などを利用して実施したい。</p>
委員	<p>栃尾美術館と同規模で同じような問題を抱えている美術館は全国に</p>

	<p>たくさんあると思う。そういったところと作品の貸し借りなど行ったらどうか。</p>
事務局	<p>同じ問題を抱えている館からというより、高橋まゆみ人形館など、集客力のある作品を所蔵している館から借用する場合はある。</p>
委員	<p>松岡達英さんは絵本作家なので、図書館との連携は欠かせない。</p>
委員	<p>議題（3）その他 来年度から中学校の部活が地域移行される。地域の美術部が廃部になったり、受け皿がない場合どうなるのか。</p>
事務局	<p>美術館でも可能な範囲で地域に協力できればと思う。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

9 会議資料 別添のとおり